

【coagari 学習会】「出張！加子母木匠塾 木造建築を学んだ大学院生と地産地消の木製小物づくり」を開催しました！

11月29日（金曜日）の学習会は「出張！加子母木匠塾 木造建築を学んだ大学院生と地産地消の木製小物づくり」と題し、ひと・まちテラスで地産地消の木材を使ったワークショップを行いました。中津高校と恵那農業高校、恵那高校から定員上限の6人が参加し、加子母地域で「地域おこし協力隊」として活動する、建築学科出身の原田佳苗さんが講師を務めました。

原田さんは大学生のときに加子母木匠塾に参加した経験や、社会人として建築の仕事に携わった話、地域おこし協力隊として加子母に戻ってきた理由、加子母地域の魅力などについて語ってくれました。

その後、中津川市産のヒノキと広葉樹を使い、クギを使わない伝統的な建築技法「継手（つぎて）」をモチーフにしたコースターを作りました。のこぎりの使い方を教わり実際に木を切る練習をした後、コースターのパーツを自分で切って紙やすりで削り、パーツ同士がぴったりと継ぎ合わさるように加工しました。

のこぎりの使い方に慣れていない生徒も、原田さんからコツを教わりながら、真剣な表情で木材を加工していました。コースターは、焼きペンで文字を描いたり、オイルを塗ったりして仕上げました。生徒たちは、ものづくりの楽しさや地元の木材の魅力を感じながら、建築の仕事に理解を深めていました。参加した生徒からは、「地域にもいろいろな技術があることを知りました」、「建築を通して地域の活動をしているなど、いろいろな話を聞いて（建築の）イメージが変わりました！」といった感想がありました。

※加子母木匠塾…全国8大学の建築学科の学生が、加子母地域に滞在しながら木造建築を学ぶ取り組み



域学連携の拠点施設「coagari」では、職業講話や学習会など、地域の方々と交流しながら、将来の職業選択の一助となるような企画を開催しています。こんな職業について知りたい！こんな話が聞きたい！というリクエストがありましたら、いつでもご連絡ください。

